

2026年3月期 中間期 決算短信補足資料

(注) 2025年3月期第3四半期において、持分法適用会社における企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前中間期との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。



2026年3月期 中間期決算概況



2026年3月期中間期 サマリー

養殖や北米水産加工の改善に加え、国内チルドが好調を継続し、各段階利益は10%以上の増益となった。中間配当は計画通り2円増配の14円。

	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比 増減	増減率(%)
売上高	4,406 億円	4,529 億円	122 億円	2.8
営業利益	172 億円	197 億円	25 億円	14.6
経常利益	190 億円	212 億円	21 億円	11.2
中間 純利益	125 億円	142 億円	17 億円	13.7

<前期数値の遡及修正について>

持分法適用会社による買収に伴う負ののれん発生益の確定に伴い、前期の数値について遡及修正している。

	2025年3月期中間期		
	遡及前	遡及後	増減
売上高	4,406 億円	4,406 億円	0 億円
営業利益	172 億円	172 億円	0 億円
経常利益	169 億円	190 億円	21 億円
中間 純利益	104 億円	125 億円	20 億円

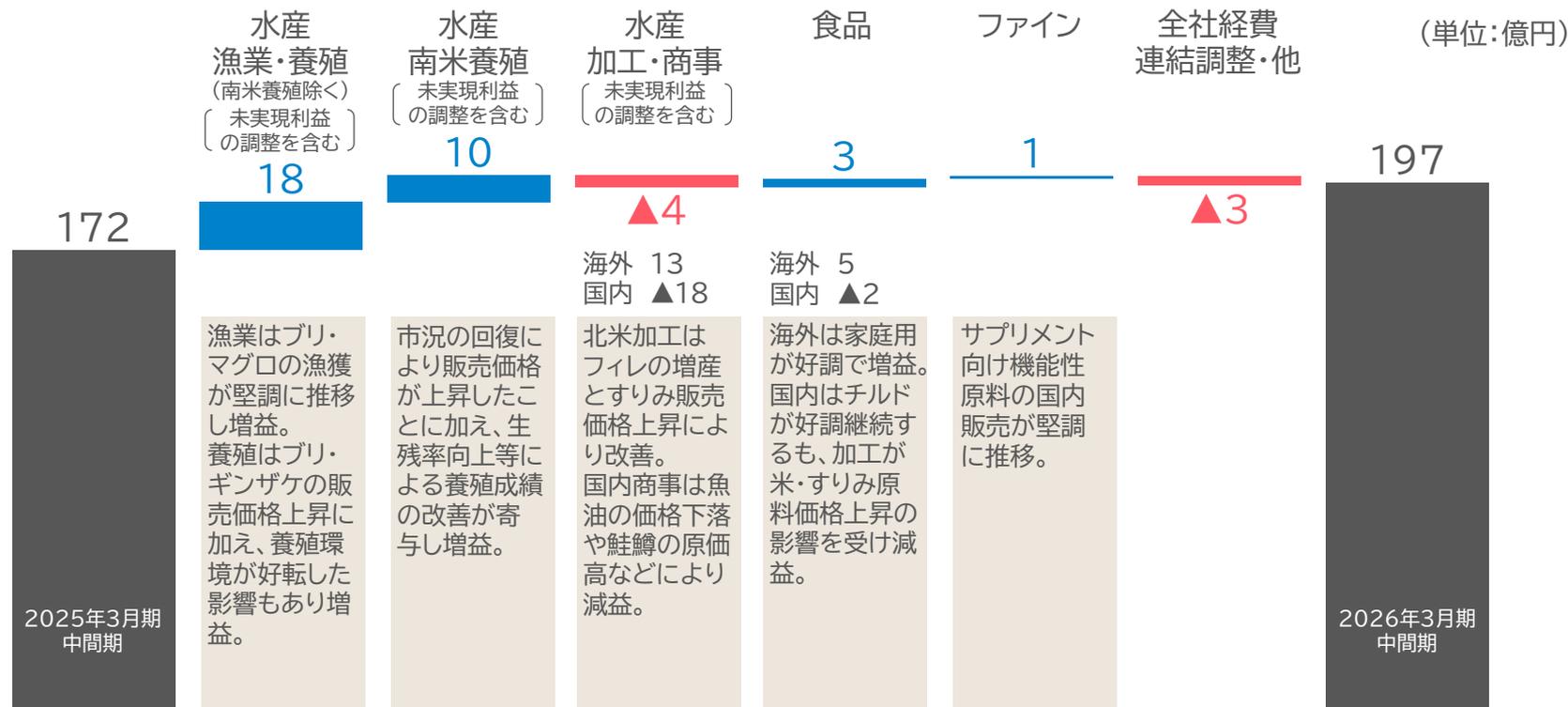
2026年3月期中間期 セグメント別概況

売上高はコンビニエンスストア向け販売が好調で増収。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	4,406	4,529	122	2.8
水産事業	1,755	1,788	32	1.8
食品事業	2,398	2,517	119	5.0
ファインケミカル事業	72	71	▲1	▲2.6
物流事業	82	83	1	1.2
その他	96	68	▲28	▲28.9
営業利益	172	197	25	14.6
水産事業	35	60	25	73.0
食品事業	163	168	5	3.1
ファインケミカル事業	1	1	0	65.4
物流事業	13	12	▲0	▲6.5
その他	6	3	▲2	▲44.7
全社経費	▲46	▲48	▲2	5.7
経常利益	190	212	21	11.2
親会社株主に帰属する中間純利益	125	142	17	13.7

2026年3月期中間期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

水産事業は養殖の改善により大きく増益。一方、加工商事は北米の改善が進むが、国内が苦戦。食品事業は国内加工が米価で苦戦も、チルドと海外がカバーし増益。



2026年3月期中間期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本に加え工場投資により総資産が増加。

(単位:億円)

()内の数字は前期末比増減		流動負債 2,328 (+67)	
流動資産 3,444 (+118)		支払手形及び買掛金 569 (+5)	
現金及び預金 197 (+49)		短期借入金 1,218 (+77)	
受取手形及び売掛金 1,102 (+28)		未払費用 274 (▲17)	
棚卸資産(在庫) 1,983 (+33)		固定負債 1,404 (+176)	
固定資産 3,126 (+102)		長期借入金 1,128 (+170)	
有形固定資産 1,883 (+74)		純資産 2,837 (▲22)	
無形固定資産 158 (▲11)		自己資本 2,742 (▲27)	
投資その他の資産 1,083 (+40)		自己資本比率	
総資産 6,570 (+221)		'25/3 43.6% ⇒ '25/9 41.7%	

2026年3月期中間期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

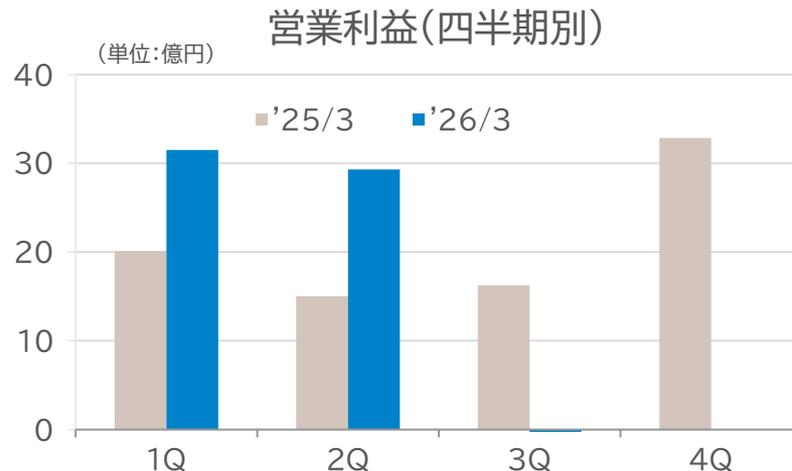
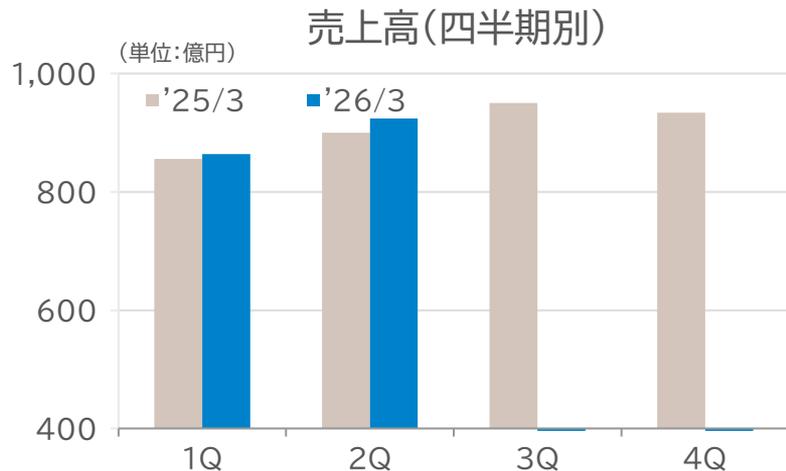
営業CFは改善するも設備支払いが増加し、フリーキャッシュフローが約90億円マイナス。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減
税金等調整前中間純利益	189	210	21
減価償却費(のれん償却含む)	123	129	5
運転資本	▲70	▲112	▲42
その他(法人税等の支払額、等)	▲108	▲62	46
営業CF	134	165	31
設備投資額(固定資産取得額)	▲146	▲248	▲102
その他	▲16	▲7	8
投資CF	▲163	▲256	▲93
借入金の増減額	78	268	190
その他	▲54	▲123	▲69
財務CF	23	144	120
現金期末残高	200	238	

2026年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

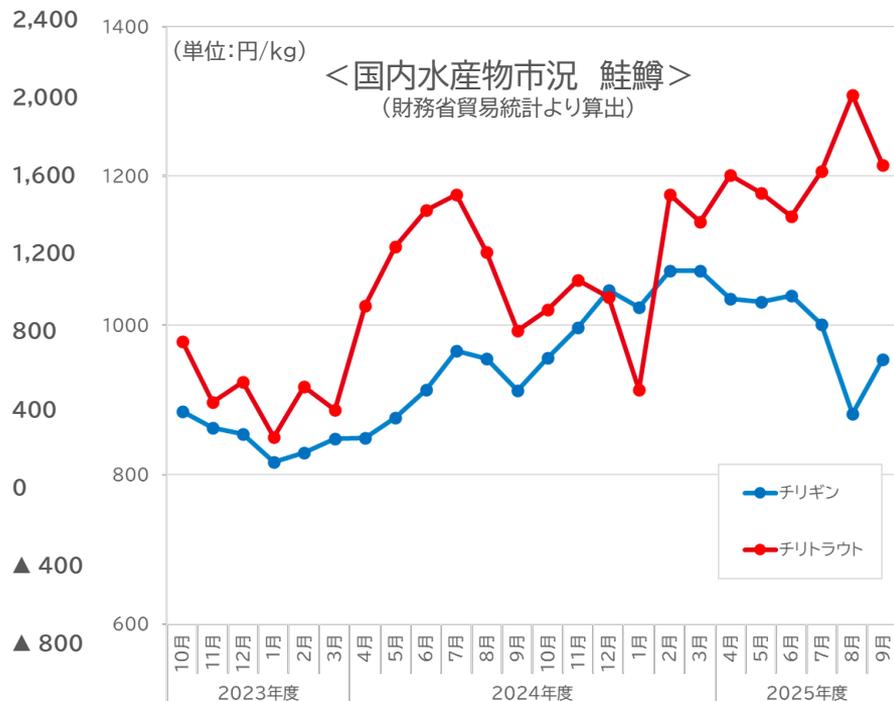
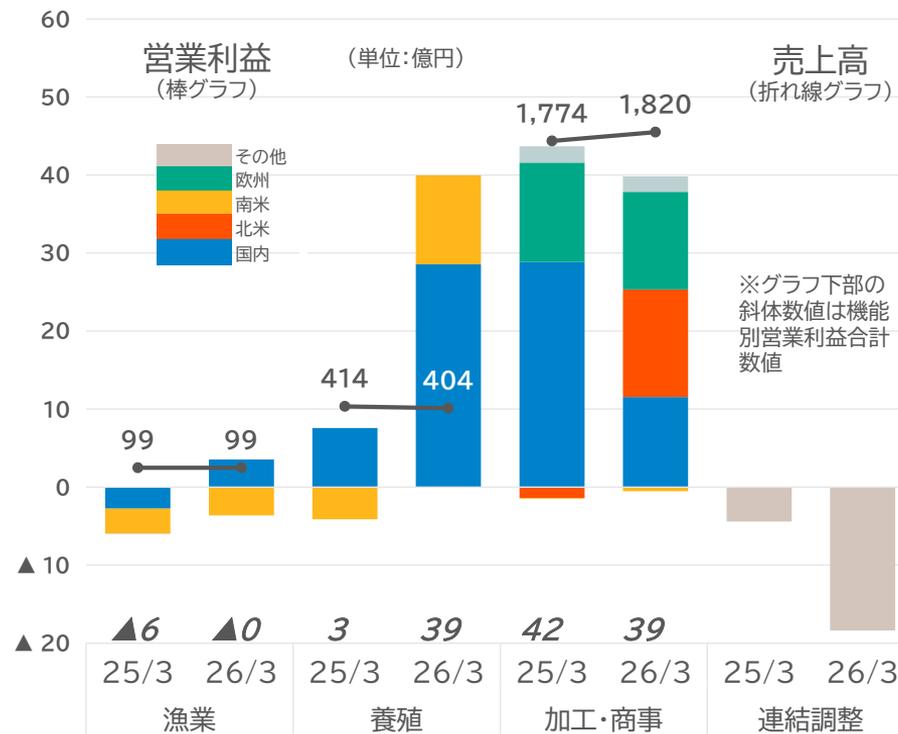
養殖が大きく改善し、国内商事の苦戦をカバー。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,755	1,788	32	1.8
営業利益	35	60	25	73.0



2026年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

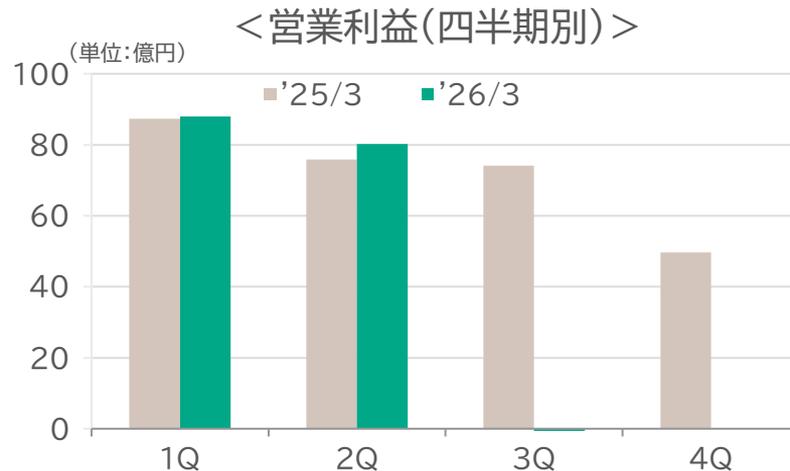
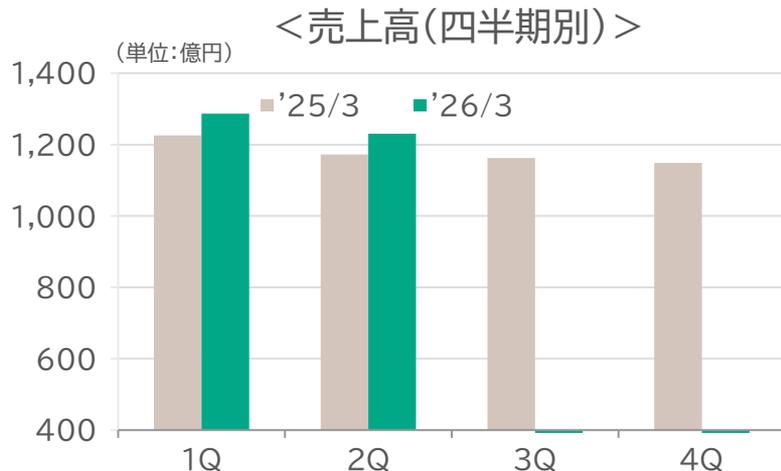
養殖は販売価格が上昇したことに加え、養殖成績が改善したこともあり大幅増益。
北米は加工の改善と商事の好調が寄与し、国内商事の苦戦を補った。



2026年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

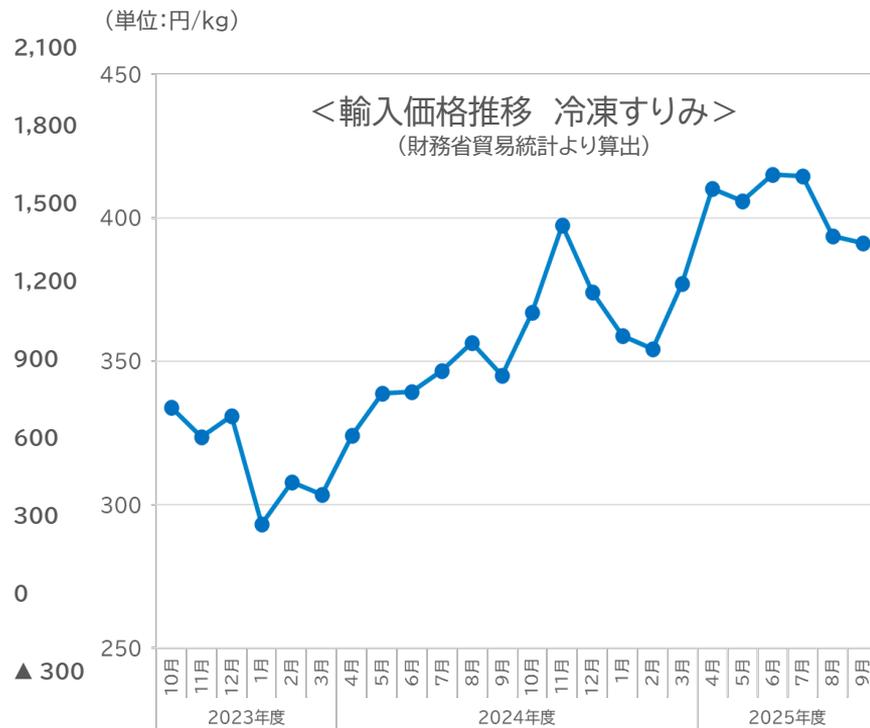
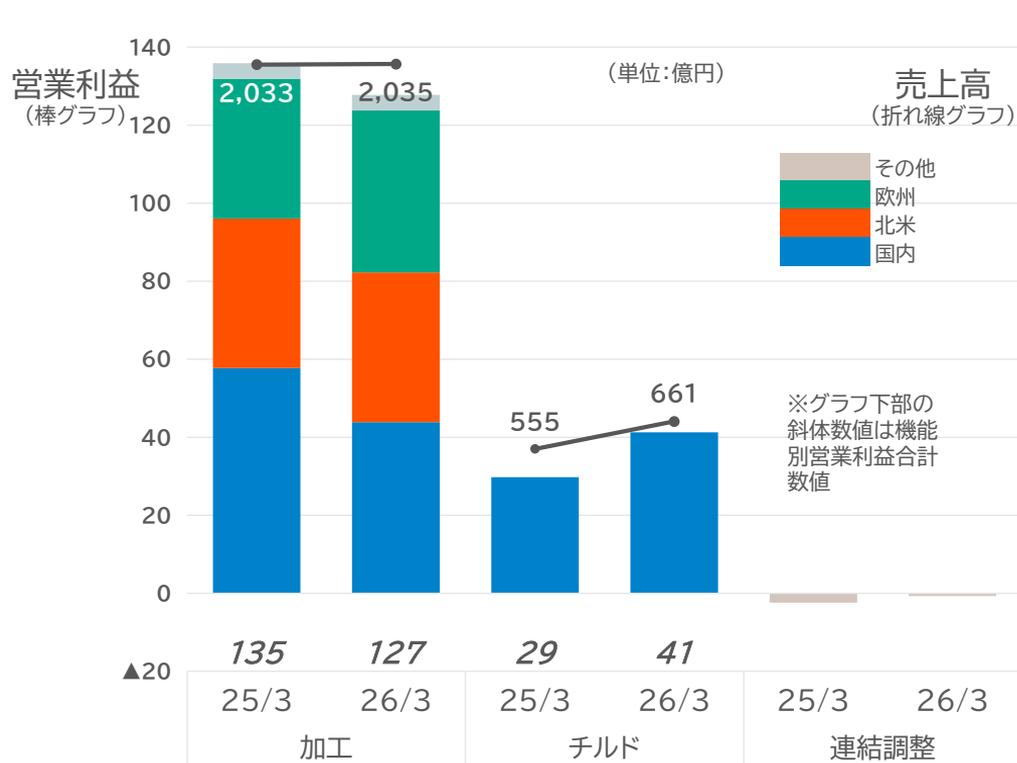
海外家庭用が堅調なうえCVSの販売促進効果もあり、国内の原料価格上昇の影響を吸収。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	2,398	2,517	119	5.0
営業利益	163	168	5	3.1



2026年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

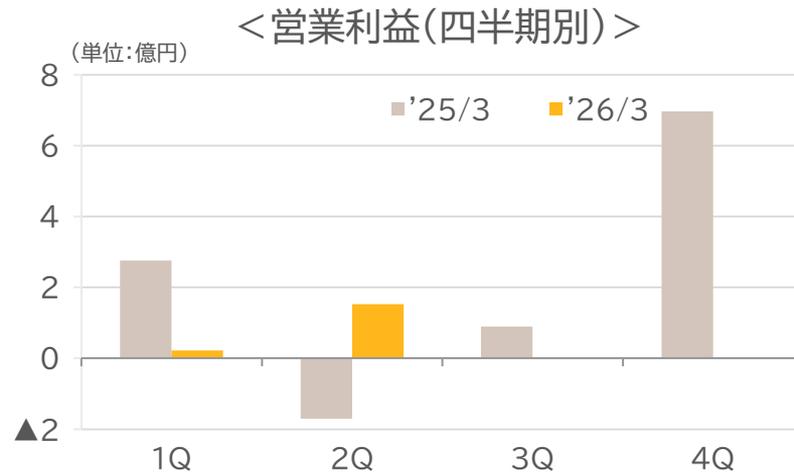
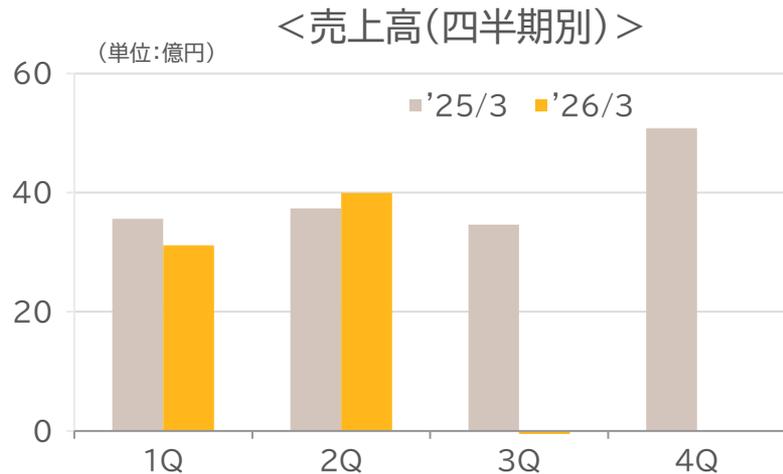
海外は、欧州での販売エリア拡大や、白身魚原料のマネジメントが奏功し増益。
国内は、チルドは好調に推移したものの、米・すりみ原料価格上昇の影響をカバーしきれず。



2026年3月期中間期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

サプリメント向け機能性原料の国内販売が堅調に推移。

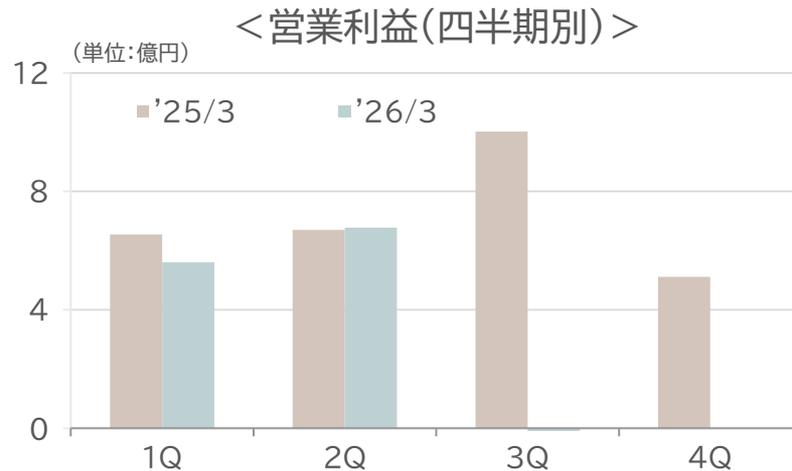
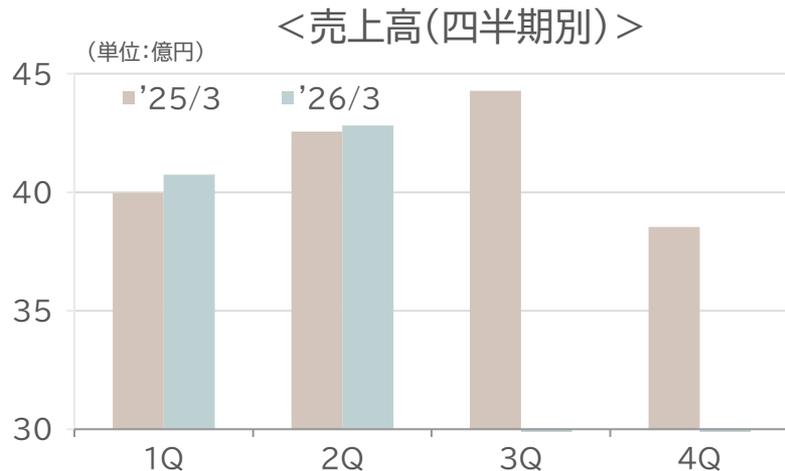
(単位:億円)	2025年3月期中間期	2026年3月期中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	72	71	▲1	▲2.6
営業利益	1	1	0	65.4



2026年3月期中間期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

物流の2024年問題を背景とした人員増に伴う人件費の増加や燃料費の上昇により減益。

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	82	83	1	1.2
営業利益	13	12	▲0	▲6.5



今後の見通し・取り組み



2026年3月期 計画(再掲) セグメント別概況

上期は海外事業の成長とチルドの拡大に加え、養殖事業の高度化、不採算事業の改善が順調に進み、計画を上回るペース。

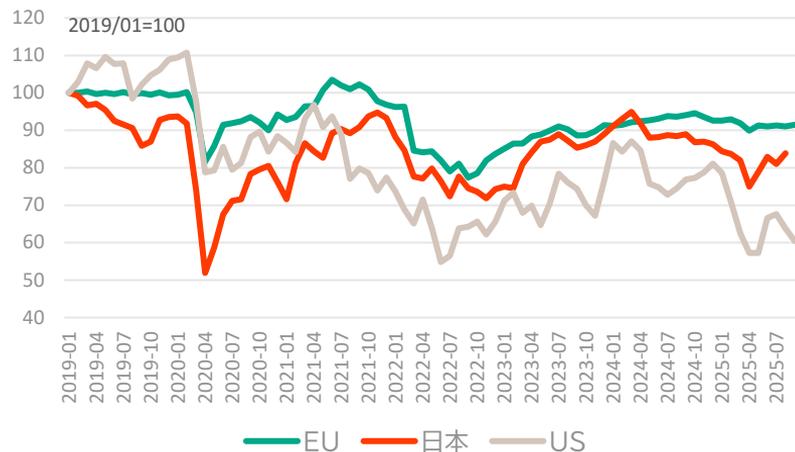
(単位:億円)	2026年3月期 中間期	2026年3月期 計画 (5/14公表)	進捗率
			(%)
売上高	4,529	9,000	50.3
水産事業	1,788	3,568	50.1
食品事業	2,517	4,901	51.4
ファインケミカル事業	71	183	38.8
物流事業	83	167	50.0
その他	68	181	38.0
営業利益	197	345	57.4
水産事業	60	127	47.7
食品事業	168	278	60.4
ファインケミカル事業	1	14	12.5
物流事業	12	25	48.6
その他	3	9	36.4
全社経費	▲48	▲110	44.3

下期以降は、中計最終年(2027年度)の飛躍に向け、養殖拡大や新增設する工場のフル稼働に向けた準備、医薬品原料の販売実現等を進めるが、各国の経済対策に加え、消費者動向や水産物・米の市況等、事業環境は不透明。

各国の消費者動向や市況を検証し適切に対応する。

▶ トランプ政権発足以降、通商政策等の影響で各国の消費者動向に変調が見られる。

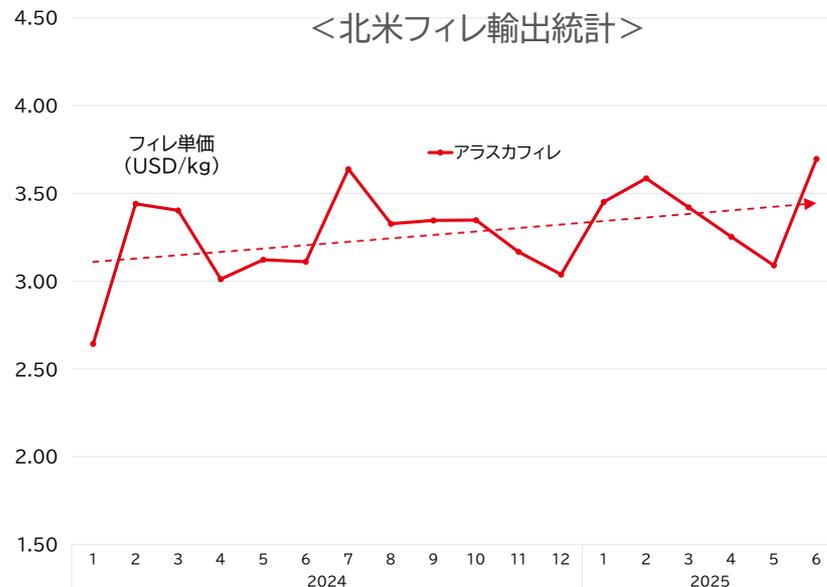
<各国の消費者動向調査>



出典: 日本/内閣府「消費動向調査(消費者態度指数)」
US / Consumer Sentiment(UMCSENT)
EU / Consumers confidence indicator and survey results(Eurostat)
2019年1月=100

▶ 白身魚市況は上昇傾向で、食品原料への影響が懸念され、状況を注視。

<北米フィレ輸出統計>



出典:NOAA(アメリカ海洋大気庁)

養殖事業の更なる拡大のため、養殖成績の改善と生産量拡大に注力。

▶ 種苗生産能力の増強・技術革新による養殖成績改善

- 一(国内ギンザケ・南米サーモン)生産能力の拡大に加え、成長促進・高温耐性化、魚病リスク低減などの種苗強化により、養殖成績の改善を図り、生産性向上を実現する。



種苗生産能力の拡大(左:岩手県、右:チリ)

- 一(ブリ)海中給餌の取り組みを検証。沈下状態の生簀に船上から給餌することで、表層水温が高くてもブリにストレスをかけることなく給餌可能となり、健康状態の向上にも期待。

▶ 養殖場の運用最適化による事業規模の増大

- 一国内ギンザケは、養殖エリアの分散による事業拡大とリスクヘッジを推進。南米サーモンは養殖場の運用最適化を図り、水揚げ数量拡大。

(国内ギンザケ)
岩手県を中心に、
2030年の1万トン体制
に向け拠点を拡大



大槌(2022年4月から事業化)
陸前高田(2025年11月から事業化)
大船渡(2025年11月から試験養殖開始)

(南米サーモン)
2030年の5万トン体制
に向けて準備



人にも地球にもやさしい養殖事業を通じ、企業価値向上につなげる。

▶ 地域と連携した生物多様性の持続的な保全

—「みらいの海をつくる森」(岩手県陸前高田市)での森林保全活動を開始

森・里・川・海のつながりによってもたらされる自然の恵みをより良い状態で残すため、保全活動などを通じた森づくりを行うことで、脱炭素・自然との共生実現に向けて取り組む



「みらいの海をつくる森」
(岩手県陸前高田市)



2025年11月2日に
行われた森開き式

▶ 気候変動への対応と海洋環境の保全

—黒瀬水産にて関係機関※とともに、「水素燃料電池を搭載した養殖給餌漁船の開発と実証」の実証実験を開始

養殖業の成長産業化と脱炭素化に向け、養殖業に従事する漁船の動力源を化石燃料から水素などの非化石燃料へ転換するための課題抽出・整理



※関係機関：一般社団法人海洋水産システム協会 および
国立研究開発法人水産研究・教育機構

引き続き収益構造の見直しを進める。

▶ (南米漁業)操業体制の見直し

- ー1隻減船による操業スタート
- ・すりみ生産縮小・フィレ生産増加で、原魚価値を向上させる。
- ・継続して漁船売却に取り組み中。



▶ (北米加工)原魚価値の最大化

- ーフィレ生産比率の向上による収益改善
- ・すりみと比較して価格が高値安定しているフィレの生産比率を高水準で維持する。
- ー漁船との協働体制強化
- ・漁船と陸上工場の協働により、適切なタイミングでの原料調達を実現し、スケソウダラ原料の品質安定による製品価値アップに貢献。



今後の見通し・取り組み： 食品事業(海外)

需要に対応するための生産能力増強と効率化を進め、成長を加速する。

<北米>



- ー 2025年9月より生産開始。2026年8月よりフル稼働を計画。北米全体での生産能力が増加し、拡大を続ける消費者需要に対応。
- ー 物流パートナーであるU.S.コールドストレージ社と提携、冷蔵倉庫などの設備面やロジスティクス面の協力を得ることで、サプライチェーンのフレキシビリティを高める。

<欧州>



- ー 建屋増設は完成。配送エリアは稼働開始。生産エリアは今後2ラインを追加し、2026年4月末からの本格稼働を目指す。
- ー 生産能力拡張や箱詰めラインの自動化、配送の効率化で収益力を強化。

ニーズに応えた商品の拡充に加え、白身魚の強みをお客様の価値に変えている姿勢を、企業CMやちくわ等の商品を通じて訴求し、ブランド価値を向上させる。

▶ 個食・簡便・健康など消費者ニーズに対応した差別化商品の展開

・独自技術やノウハウを融合した優位性のある商品を展開。



レンジ調理で簡単に喫食できるワンプレート冷凍弁当



レンジで時短・簡便に調理できる冷凍惣菜

▶ CMや白身魚商品を通じたブランド価値向上

・「人々により良い食を届けたい」という想いや、卵フリーをテーマにした企業CMを展開。店頭での白身魚商品との連動により、ブランド価値向上を図る。

・食の体験を提供するイベントを通じ、練り製品と接点が少ない層へのアプローチを強化。



イベントでの提供商品と会場の様子



国内通販では、従来より手軽にEPA・DHAが摂れる商品を新たに展開。物販では、高度精製技術に加え、脱臭・乳化・酸化防止などの技術を活かした商品を国内外で拡大。

▶ 通販(国内)

- EPA・DHAの1日摂取目安量の1/3を手軽に摂取し、健康維持が期待できる商品を展開。



(カプセル)



(ドリンク)

▶ 物販(国内外)

- (日本)国内量販店に向けた速筋タンパク・グミ商品の販売を強化。



- (海外)アジア各国において、FDAへの登録などを開始。年度内のグローバル販売に向けた準備を進める。





バリューチェーン強靱化を通じ、
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(GOOD FOODS 2030)」
達成に向けて取り組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

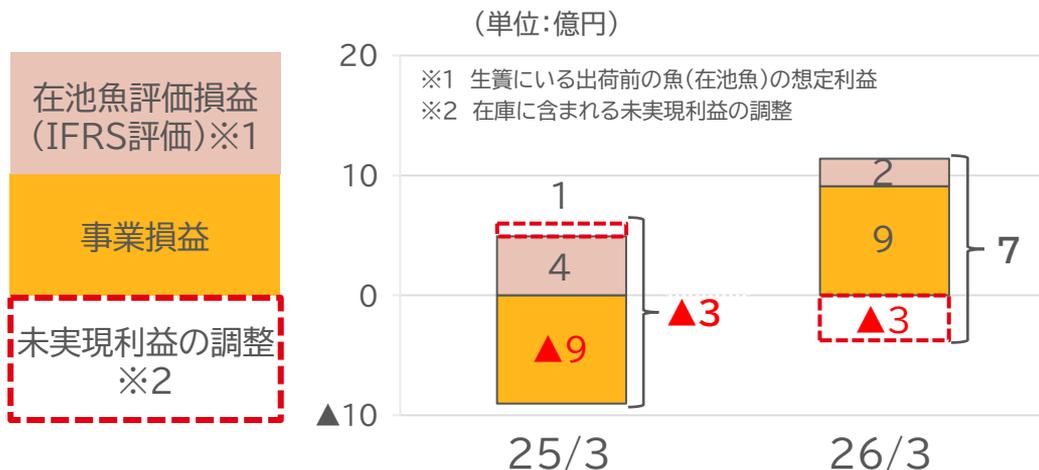
<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

参考資料



2026年3月期中間期 南米鮭鱒養殖について

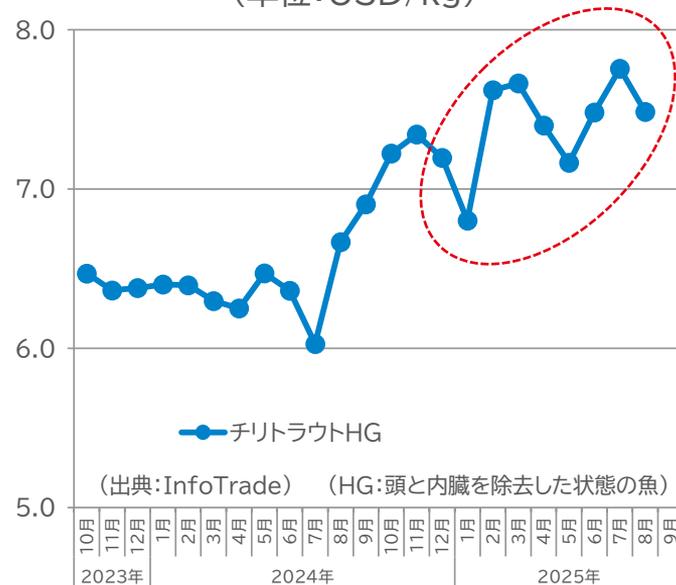
在池魚評価損益はほぼ影響なし。



<在池魚評価損益 内訳>

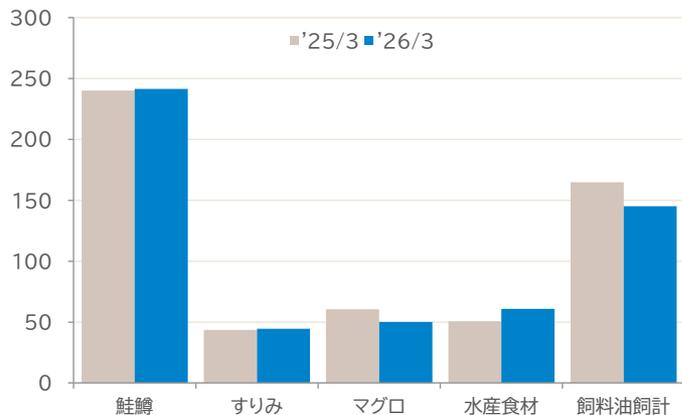
(単位:億円)	25/3 2Q	26/3 2Q
期首戻入額	22	▲3
期末評価損益	▲17	6
在池魚評価損益	4	2

<チリ産トラウトHG相場推移> (単位:USD/kg)

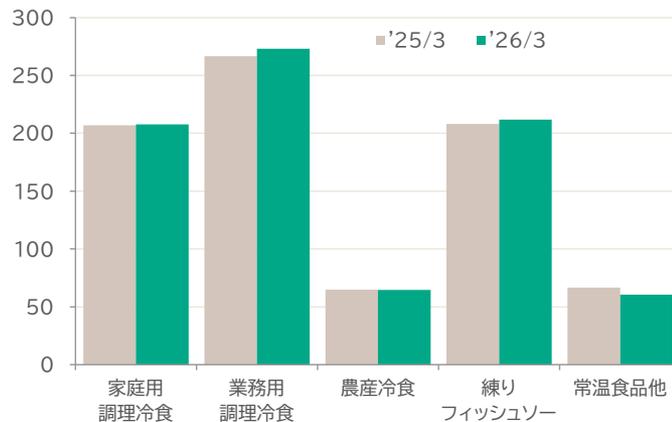


2026年3月期中間期 参考資料

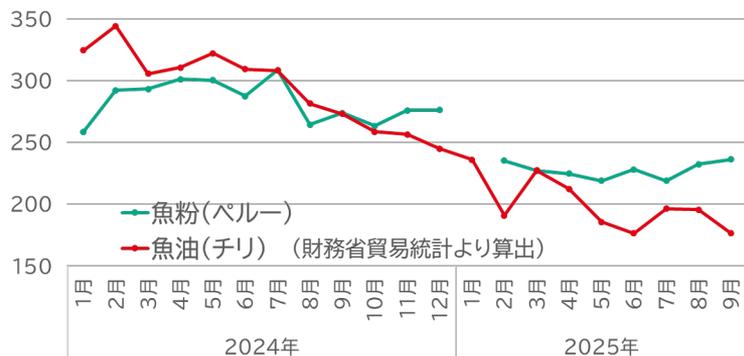
水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



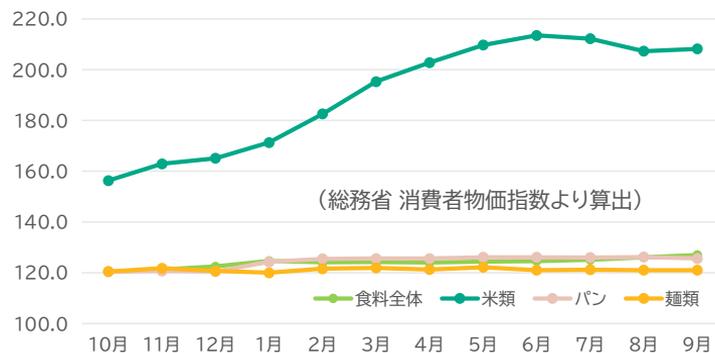
食品個別 カテゴリー別売上高 (単位:億円)



輸入価格推移 魚油・魚粉 (単位:円/kg)



食料価格の推移(米類・パン・麺類) (指数:2020年=100)



2026年3月期中間期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減	主な増減要因
売上高	4,406	4,529	122	
売上総利益	707	744	36	
販売費・一般管理費	534	546	11	
営業利益	172	197	25	
営業外収益	36	29	▲6	持分法による投資利益▲13、助成金収入+6
営業外費用	18	15	▲2	
経常利益	190	212	21	
特別利益	4	4	▲0	
特別損失	5	5	▲0	
税金等調整前中間純利益	189	210	21	
法人税等	53	60	6	
法人税等調整額	0	▲4	▲4	
中間純利益	135	154	19	
非支配株主に帰属する 中間純利益	9	11	1	
親会社株主に帰属する 中間純利益	125	142	17	

2026年3月期中間期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2025年3月期 中間期		2026年3月期 中間期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	771	1,187	813	1,202	42	15	65	▲49
EUR(百万ユーロ)	220	367	234	379	13	12	22	▲9
DKK(百万クローネ)	1,667	372	1,780	387	113	14	24	▲10
その他通貨	—	195	—	215	—	19	19	0
計		2,123		2,185		61	131	▲69

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第2四半期の平均

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	変動率
米ドル(USD)	158.24 円	143.75 円	▲9.2%
ユーロ(EUR)	170.08 円	165.13 円	▲2.9%
デンマーククローネ (DKK)	22.80 円	22.13 円	▲3.0%

2026年3月期中間期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,223 (▲14)	428 (51)	186 (▲21)	450 (21)	36 (0)	2,325 (36)	▲536 (▲3)	1,788 (33)
	1,237	377	207	429	36	2,289	▲533	1,755
食品事業	1,614 (96)	587 (▲13)		436 (18)	59 (8)	2,697 (109)	▲179 (11)	2,517 (119)
	1,518	600		418	51	2,588	▲190	2,398
ファイン 事業	84 (▲3)					84 (▲3)	▲13 (1)	71 (▲1)
	87					87	▲14	72
物流事業	166 (6)					166 (6)	▲82 (▲5)	83 (1)
	160					160	▲77	82
その他 事業	95 (▲18)				1 (1)	96 (▲18)	▲28 (▲10)	68 (▲28)
	113				0	114	▲18	96
仮計	3,184 (68)	1,015 (37)	186 (▲21)	886 (38)	97 (9)	5,369 (129)		
	3,116	978	207	848	88	5,240		
連結調整	▲509 (▲7)	▲132 (▲15)	▲127 (17)	▲7 (1)	▲63 (▲2)		▲840 (▲7)	
	▲502	▲117	▲144	▲8	▲61		▲833	
連結計	2,674 (60)	882 (21)	58 (▲5)	878 (39)	34 (7)			4,529 (123)
	2,614	861	63	839	27			4,406

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

2026年3月期中間期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

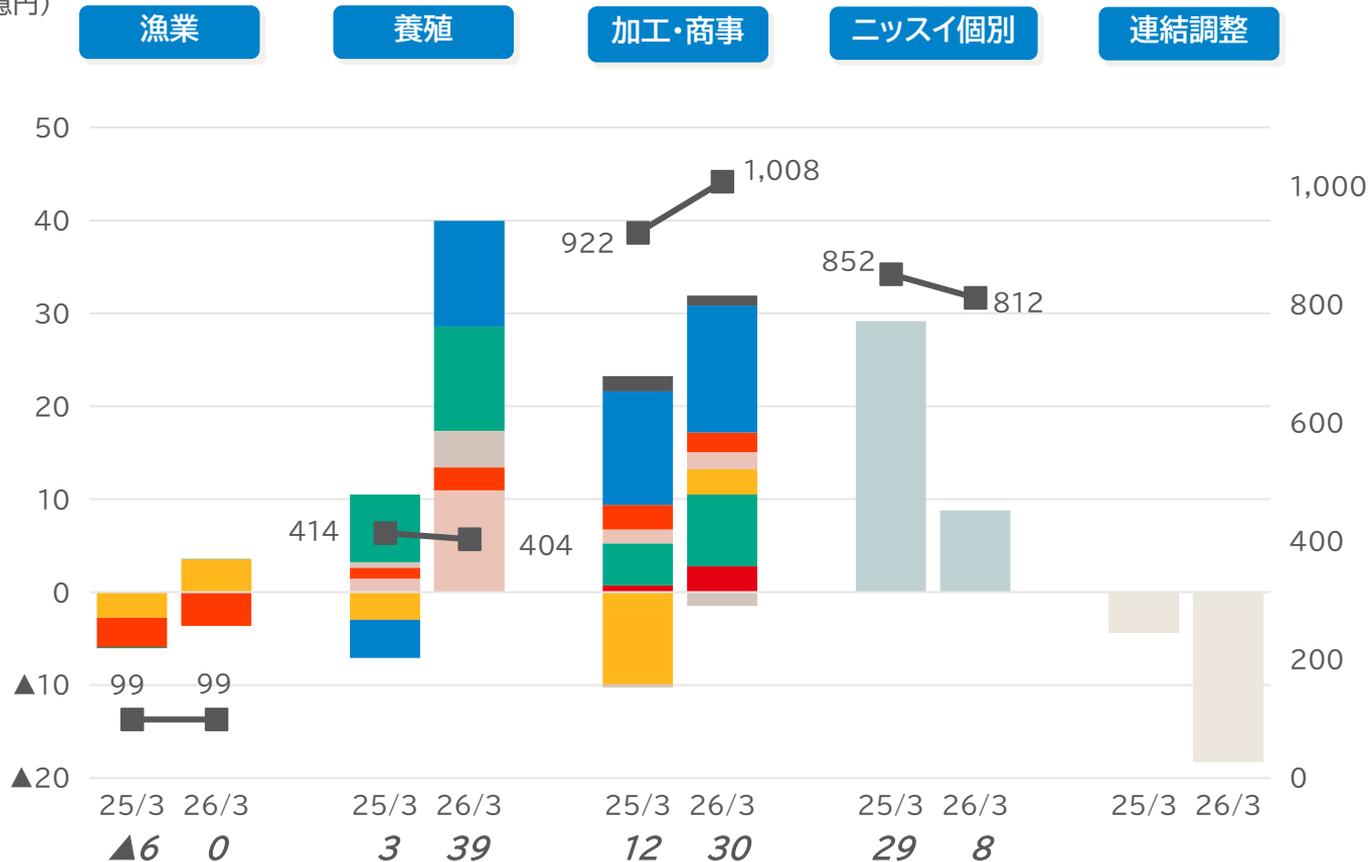
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	43 (10)	13 (15)	7 (14)	12 (▲0)	2 (0)		79 (39)	▲18 (▲13)	60 (25)	3.4 (1.4)
	33	▲1	▲7	12	1		39	▲4	35	2.0
食品事業	85 (▲2)	38 (0)		41 (5)	4 (0)		169 (3)	▲0 (1)	168 (5)	6.7 (▲0.1)
	87	38		35	4		165	▲2	163	6.8
ファイン 事業	2 (1)						2 (1)	▲0 (▲0)	1 (0)	2.4 (1.0)
	1						1	▲0	1	1.4
物流事業	12 (▲0)						12 (▲0)	0 (0)	12 (▲0)	14.8 (▲1.2)
	13						13	0	13	16.0
その他 事業	3 (▲1)				0 (0)		3 (▲1)	▲0 (▲1)	3 (▲2)	5.0 (▲1.5)
	4				0		4	1	6	6.5
全社経費						▲49 (▲2)	▲49 (▲2)	0 (▲0)	▲48 (▲2)	
						▲46	▲46	0	▲46	
仮計	146 (6)	52 (15)	7 (14)	54 (5)	6 (0)	▲49 (▲2)	217 (39)			
	140	36	▲7	48	6	▲46	177			
連結調整	▲8 (▲9)	▲4 (▲1)	▲3 (▲4)	▲2 (1)	▲0 (0)	0 (0)		▲19 (▲14)		
	0	▲2	1	▲3	▲0	0		▲5		
連結計	138 (▲2)	47 (13)	3 (9)	51 (6)	6 (0)	▲49 (▲2)			197 (25)	4.4 (0.4)
	141	34	▲6	44	5	▲46			172	3.9

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

2026年3月期中間期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)

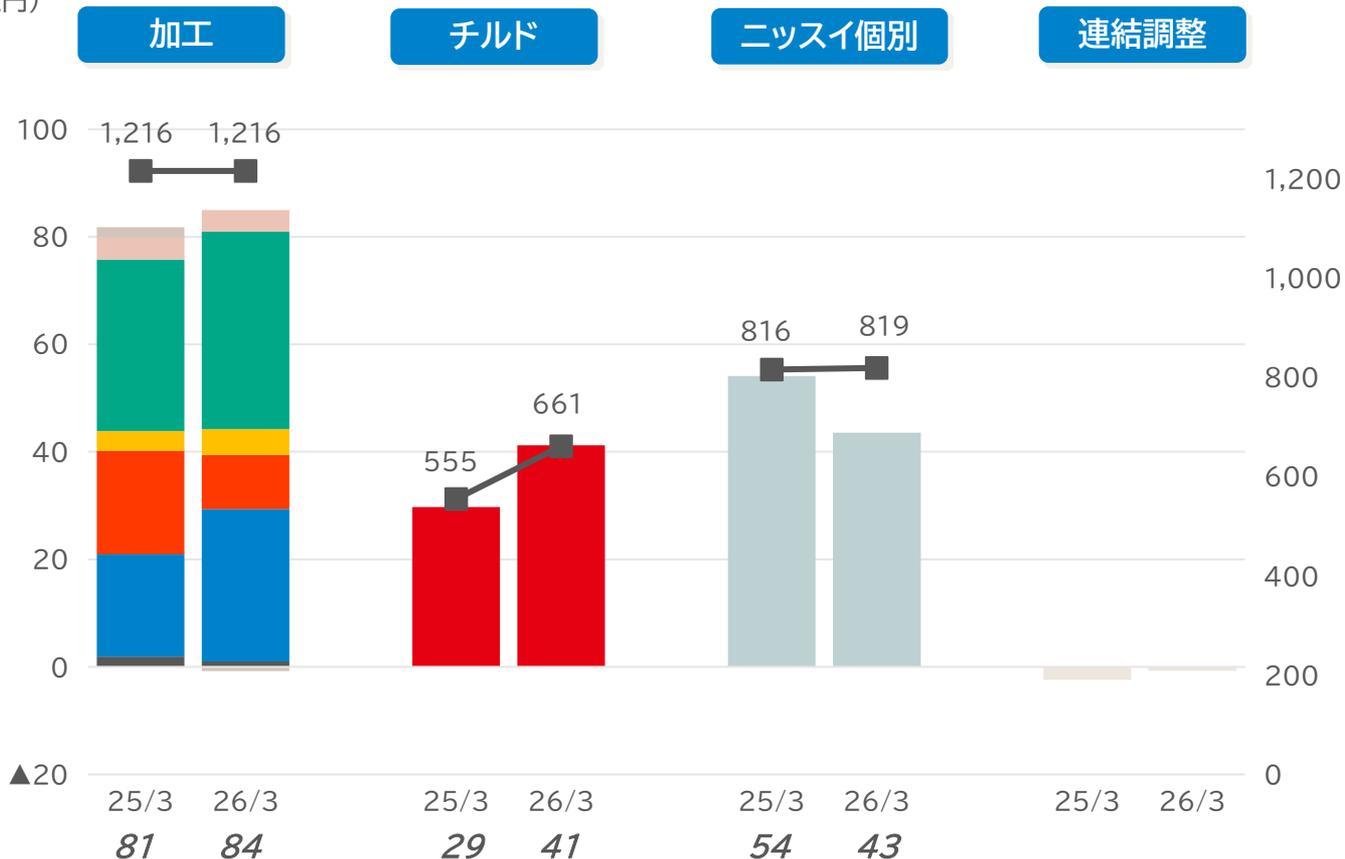
売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

2026年3月期中間期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。